水辺とまちの未来のかたち
－ミズベリング世界会議からの挑戦－

田村　友秀[1]

[1]近畿地方整備局　大和川河川事務所　（〒583-0001 大阪府藤井寺市川北3丁目8番33号）

水辺に対する関心を高め，まちの価値を高めるための資源として有効利用されるよう民間活力を積極的に引き出すためのプロモーションである「ミズベリングプロジェクト」．2015年10月，近畿地方整備局はミズベリングプロジェクトの一環として，ミズベリング世界会議を開催した．これは，国内外の先進的な取り組みを結集し，水辺を活かした「ミズベ経営の実現」をめざしたものである．
ミズベリング世界会議の成果は，その後，近畿各地で新たな取り組みや挑戦へと引き継がれている．

キーワード　ミズベリング，水辺利用，賑わい創出，まちづくり

1. はじめに

2015年10月，近畿地方整備局はミズベリング世界会議を開催した．
ミズベリング世界会議は，水辺に対する関心を高め，まちの価値を高めるための資源として有効利用されるよう民間活力を積極的に引き出すためのプロモーションである「ミズベリングプロジェクト」の一環として実施したものである．

本報告は，ミズベリング世界会議に至る経緯と成果，そして近畿各地で動き出した新たな取り組みや挑戦について報告する．

2. 河川敷地占用許可準則の緩和からミズベリングプロジェクトへ

(1) 河川敷地占用許可準則の緩和

2010年5月に策定された国土交通省成長戦略は，地域や企業の創意工夫による成長を促進するため，規制緩和に積極的に取り組み，自由度を高め，民間の新しい提案や大胆な経営を促進させることを政策の基本原則とした．河川においては，民間事業者が河川敷地にオープンカフェやキャンプ場等を設置することを可能とする，河川空間のオープン化の方針が示された．

2004年3月，民間事業者による水辺空間を活かした賑わいの創出や魅力あるまちづくりを目的とした河川敷地利用を可能とする特例措置が始まった．当初は社会実験として全国８河川で実施された．

その後，2011年3月に河川敷地占用許可準則が改正され全国の河川へ拡大．こうして河川空間のオープン化へと規制緩和が図られた．

(2) 水辺とまちの未来創造プロジェクト

世界の大都市では，都市を代表する河川と周辺の町並みが一体となり美しく風格のある空間を形成してきた．水辺とまちの未来のかたちをデザインし，「つくる」だけでなく「育てる」ことを視野に入れた持続可能な未来の創造に貢献するため，

①まちにある川や水辺空間の賢い利用
②民間企業等の民間活力の積極的な参画
③市民や民間を巻き込んだソーシャルデザイン

の３つを基本コンセプトとする「水辺とまちの未来創造プロジェクト」が始動した．
水辺とまちの未来創造プロジェクトでは，社会の関心を高め，様々な立場からの参画を得るため，水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会の開催（2013年12月，第1回懇談会開催）やモデルプロジェクトの推進などと伴にミズベリングプロジェクトの展開が提案された．

(3) ミズベリングプロジェクト

ミズベリング※プロジェクトとは，かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクト．水辺に興味を持つ市民や企業，そして行政が三位一体となって，水辺とまちが一体となった美しい景観と新しい賑わいを生み出すムーブメントをつぎつぎと起こす取り組みである．

※ミズベリングは，「水辺＋RING(輪)」，「水辺＋R(リノベーション)＋ING(進行形)」の造語.

(4) ミズベリングプロジェクトの取り組み

2014年3月，国土交通省はミズベリングプロジェクトのスタートアッププログラムとして，「ミズベリング東京会議」を開催した．ミズベリング東京会議以降，全国41箇所※で水辺の在り方，活用のアイデアを話し合うミズベリング地方会議が開催されている．

近畿地方でも，ミズベリング大阪会議を皮切りに越前若狭会議や大津・瀬田川会議など各地で地方会議が開催されている．

※2016年3月1日現在，ミズベリング事務局まとめ

a) ミズベリング東京会議

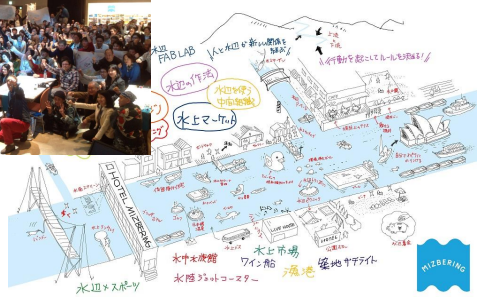
開催日：2014年3月22日

主　催：ミズベリングプロジェクト事務局

場　所：すみだリバーサイドホール

参加者数：約２００名

ミズベリングプロジェクトのスタートアッププログラムとして開催．水辺とまちの未来について語り合い，その場で出てきた意見を即座にスクリーンにスケッチした「水辺の未来図」を参加者全員で共有した．



写真－１　ミズベリング東京会議

図－１　水辺の未来図

b) ミズベリング大阪会議

開催日：2014年10月11日(土)

主　催：一般社団法人水都大阪パートナーズ

写真－２　大阪会議

場　所：堂島リバーフォーラム

参加者数：１５０名

水辺に関わる人たちが一堂に会し，水辺からのアクションの新しいアイデアについて意見交換を行った．水都大阪の仕掛け人達が，これまでの取り組みや水辺のビジネスなどについて語り,世界に向けて日本の水辺を発信するためのヒントを共有した．

c) ミズベリング・越前若狭会議

開催日：2015年3月12日（木）

主　催：リバビズ大学 in 日野川流域交流会

場　所：福井県国際交流会館

参加者数：１２４名

日本の水辺の新しい活用の可能性を創造する取り組みが全国的に広まる中，福井でも日野川や足羽川，九頭竜川などの美しい水辺空間を活かして何かをしてみたい，という関心が高まっていた．会議では，福井の水辺が持つポテンシャルに“気づき”，その活用のあり方について考えた．

写真－３　越前若狭会議

この他にも，2015年3月には完成したばかりの散策路を巡るウォークラリーイベントに合わせミズベリング大津・瀬田川会議が，9月には地域の大学や商工会，行政などが連携したミズベリング近江八幡会議が開催されたほか，和歌山市でも市民団体による水辺の賑わい創出のための勉強会が進められている．

また，地方会議とは別の形のプロモーションとして，2015年7月7日には，全国の水辺に集まって一斉に乾杯す

写真－４　水辺で乾杯（福知山城）

る「水辺で乾杯」を実施した．（写真－４）

こうしたミズベリング大阪会議から始まる近畿各地の地方会議で示された水辺への熱い想いを受け継ぎ，発展させることをめざし，ミズベリング世界会議を開催することとなった．

3. ミズベリング世界会議 in OSAKA

～ミズベのすべてを学び，語り，体験する3日間～

(1) 目的

ミズベリング世界会議 in OSAKAは，水辺日本一の水都大阪を世界へ発信するとともに，国内外の先進的な取り組みを結集することで，民間活力を呼び込む手法や枠組みを議論し，水辺を活かした「ミズベ経営の実現」をめざして，2015 年10月9 日から11日までの３日間，大阪の堂島リバーフォーラムで開催した．

(2) 概要

実施日：2015年10月9日（金）～10月11日（日）
主　催：「ミズベリング世界会議」運営会議
会　場：堂島リバーフォーラム
参加者：延べ 860 名

a) 10月9日(金)　ミズベシンポジウム
参加者：446名
魅力ある世界の水辺の事例を一挙公開 ！
世界の最新情報をここで聞く！！

サンアントニオ，バンコク，パリ，そしてミズベ日本一の大阪で展開されている先進事例を通して，活動や事業を支える仕組み，民間活力の導入手法，ミズベをきっかけとした，まちの使いこなし方やマネジメント手法などを各国がプレゼンテーション．その後，パネリストとコーディネーターによる水辺を活かしたまちづくりの手法や各都市の将来展望などについてパネルディスカッションを行った．

写真－５ ミズベシンポジウム（第１日目）

水辺という資産を活かし，まちを経営するという考え方を導入し，より広く魅力を享受できる，新しい共有のしくみづくりが必要という視点が示された．

b) 10月10日(土)　ミズベワークショップ
参加者：234 名
国内外のミズベに恋する
プレイヤー・プロデューサー達が大集結 ！
ミズベ愛あふれる水都大阪に学ぶ ！

水辺を愛する国内外の活動家や有識者，事業者などミズベに恋するキーマン（トップミズベラー）達がチームに分かれてワークショップを開催．活動のきっかけや失敗談，将来の夢を５つのテーマ（**見つける，伝える，設える，育てる，広げる**）で議論した．
また，淀川に浮かぶ船上会場からの生中継も行った．

写真－６ ミズベワークショップ（第２日目）

トップミズベラー達による議論の中から，水辺の魅力アップにつながるアイデアを「水辺アクションブック」として取りまとめ公表した．　（表－１）

表－１ 水辺の魅力アップアイデア（抜粋）

[見つける] ■キーマンになる人を見つける ■課題を見つける ■非日常を見つける ※キーマンになる人を見つける ※水辺の再発見	[育てる] ■キーマンの育成 ■世代を超えた課題の共有 ■継続できるアクションを育てる ※多様な専門家と分業して展開 ※継続できるアクションを育てる
[伝える] ■自分ごとにして伝える ■外からの視点を意識する ■ターゲットに届く方法で伝える ※体験につなげる ※ＳＮＳの活用	[広げる] ■多世代が参画しやすい状況 ■既存の仕組みを使った発進 ■経営的視点が重要 ※一定期間の開催 ※制度の壁を越える
[設える] ■気持ちよくたたずめる工夫 ■引き算の設え ■今あるものを活かした設え ※今あるものを活かした設え ※地域をつなぐ設え	

※「水辺アクションブック」より

c) 10月11日(日)　ミズベ未来アクション
参加者：180 名
次世代が想い描くミズベの未来のために，
我々は何をすべきか，バトルトークで決着！
関西７大学の学生による水辺への提案も！

３日目は未来のミズベを考えるとして，次世代の学生

たちの提案（第１部）と幅広いフィールドで活躍するパネリストたちが考える未来のミズベについて討論を行った．（第２部）

［第１部］

・大学連携・学生発表

関西を中心とした建築・都市系７大学の学生達が，「水」・「アーバンデザイン」・「エリアマネジメント」をテーマに様々な対象地を設定し，未来のミズベのあり方をダイナミックに提案．それらを有名建築家や行政担当者，大学講師達が講評を行った．

写真－７ 大学連携・学生発表（第３日目）

［第２部］

・基調講演，バトルトーク

第２部のバトルトークセッションでは，水辺都市の再生，観光まちづくりの専門家である橋爪 紳也 氏の基調講演をきっかけに，ランドスケープデザイン，建築，都市計画など幅広いフィールドで活躍するパネリスト達が民間と行政という立場を超え，それぞれが考える水辺の将来像をぶつけ合うバトルトークを展開した．

写真－８ バトルトーク（第３日目）

(3) 関連イベント

a) ミズベ体験プログラム

ミズベリング世界会議の開催に合わせて，淀川や大阪市内の水辺を体験し満喫でき様々な体験プログラムを展開した．

・淀川アーバンキャンプ 2015

～ミズベリング淀川のはじまり～

開催日：2015年9月19日（土）

主　催：大阪商工会議所，共催：淀川河川事務所

場　所：淀川河川公園十三野草地区

参加者数：約３００名

ミズベリング世界会議のプレイベントとして開催．淀川活性化の実験事業としてグランピング・キャンプやクルーズなど大阪キタの摩天楼（ビル群）を眺めながら自然を楽しむイベントを実施した．また，「ミズベリングよどがわ」プロジェクトとしてゲストスピーカーを迎え，淀川の観光活用に向けたディスカッションを行った．

写真－９ 淀川アーバンキャンプ 2015

・限定招待　大阪ナイトクルーズ（2015/10/10, 11）

八軒家浜から大川（旧淀川）をさかのぼり，淀川毛馬閘門までを往復するナイトクルーズを開催．参加者は水の上を静かに航行することのできる電気船に乗り，大川に架かる橋のライトアップや水面に映りこむまちの夜景を楽しんだ．

・淀川大堰・毛馬閘門見学会（2015/10/10, 11）

参加者に淀川の歴史や，さまざまな治水・防災対策を紹介するため，普段は見ることができない淀川大堰や毛馬閘門を体感できる見学会を開催．淀川大堰，毛馬閘門を見学後，船に乗り毛馬閘門を通って大川 八軒家浜船着場までの見学ツアーを実施した．

写真－10 淀川大堰・毛馬閘門見学会

・淀川舟運イベント

舟運社会実験と連携し，淀川の歴史についての解説

や「三十石船唄」を聞きながら，参加者が往時の船旅に思いをはせ，枚方・八軒家浜間の船旅を楽しめるイベントを開催した．

・大正リバービレッジ

準則特区による河川利活用の実証実験プロジェクト．水辺の利活用事例として紹介した．

・中之島漁港／中之島みなと食堂

元港湾エリアでの公有地ビジネスによる，２年間限定のポテンシャルアッププロジェクト．活魚や鮮魚の販売，海鮮バーベキューが楽しめるスポットとして紹介した．

b) 世界河川プロモーション会議

ミズベリング世界会議期間中，国内・海外の雑誌編集者を招き，大阪や日本の河川環境や利活用の状況について知ってもらうため，世界河川プロモーション会議を開催した．淀川や大阪市内の河川における河川整備や利活用の取組みなどを紹介し情報提供を行った．

また，ミズベリング世界会議にも参加し，メディアの視点や魅力の発見などについて情報提供を行った．

(4) 「ミズベリング世界会議」運営会議

ミズベリング世界会議の開催にあたっては，実行委員会方式による運営委員会を組織し，運営を行った．

表－２　「ミズベリング世界会議」運営会議

事務局：近畿地方整備局　河川部河川環境課	
山名 清隆	ミズベリング・プロジェクト事務局
佐井 秀樹	一般社団法人 水都大阪パートナーズ
福岡 孝則	神戸大学大学院 工学研究科　建築学専攻　特命准教授
中村 裕子	大阪商工会議所、全国水都ネットワークフォーラム運営
嘉名 光市	大阪市立大学大学院 工学研究科都市系専攻 准教授
森 なおみ	（株）インプリージョン
忽那 裕樹	ミズベリング世界会議プロデューサー

※敬称略

(5) ミズベリング世界会議の成果と今後の課題

ミズベリング世界会議が水辺利用の先進地，大阪で３日間，延べ860名の参加者を集めて開催出来たこと，そして，水辺の新たな使いこなしや魅力づくりのヒントを全国に発信できたことは，ミズベリングプロジェクトとして大きな成果であった．

今後に向けての課題は，今ある資源や人の繋がりを新たな形で情報発信するなど，今後の発展に繋げること．水辺を利活用する人向けだけでなく，水辺を楽しむ人向けという発想に広げるなどが挙げられる．

なお，ミズベリング世界会議の成果は，記録集にまとめ公表している．

■ミズベリング世界会議　記録集

http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kankyou/mizberingp.html

4. 近畿における新たな取り組み
－ミズベリング世界会議からの挑戦－

ミズベリング世界会議では，水辺の利活用や賑わい創出を進めるための５つのテーマ※について議論され，その議論の中から，水辺の新たな使いこなしや魅力づくりのヒントが示された．

ミズベリング世界会議をきっかけとした，水辺とまちが一体となった美しい景観と新しい賑わいを生み出すための新たな取り組みや挑戦が，近畿各地で動き出している．

※見つける，伝える，設える，育てる，広げる

(1) 淀川水系の挑戦

・淀川アーバンキャンプ2016

開催日：2016年9月17日（土）～25日（日）

場　所：淀川河川公園西中島地区

ミズベリング世界会議をきっかけに，今年は水都大阪フェス2016と本格的に連携し大阪市内の水の回廊エリアに対し，淀川本川の西中島エリアから枚方エリアまでを水都広域エリアとして展開する．

淀川アーバンキャンプ2016は，開催期間を９月のシルバーウィーク期間（9日間）とし，また．事業者を民間から公募した．（※29事業者が応募）バーベキューやキャンプ，各種アクティビティ体験，アウトドアツール等の展示販売など27のプログラムを用意．都心のビル群を臨む，自然豊かな淀川の水辺で，おしゃれな都市型アウトドアを満喫できるイベントとして開催する．

※テーマ：見つける，育てる，広げる

さらに，淀川水系では，こうした賑わい創出のための様々なイベント，取り組みを広く一般の方に知ってもらうため，「よどがわにぎわいプロジェクト」を進めている．淀川水系における様々なイベントを「ミズベリング」という共通コンセプトのもと紹介・発信する「よどがわにぎわいカレンダー」を公開している．カレンダーには近畿地方整備局のイベントだけでなく，地域の活動団体などが実施するイベントも紹介し，地域の特色にあった水辺の利用，賑わい創出をめざしている．

※テーマ：伝える，広げる

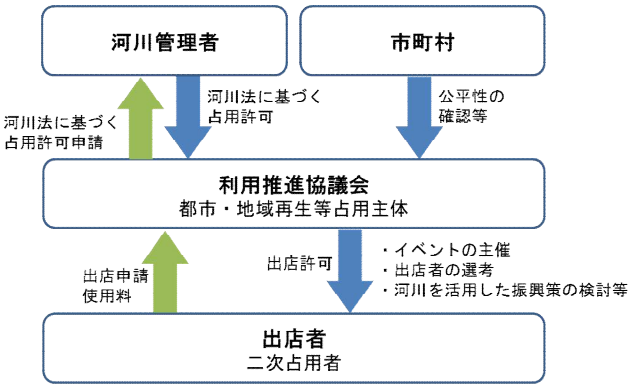
■よどがわにぎわいプロジェクト

http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/mizbering-yodogawa/

(2) 九頭竜川水系の挑戦

2015年3月の「ミズベリング・越前若狭会議」をきっかけに2015年11月，「川TERRACE（テラス）」（主催：リバビズ大学in日野川流域交流会）が開催された．福井市内，九頭竜川支川足羽川沿いの通称，浜町通り周辺の飲食店がワインバーを出店し，ワインやソフトドリ

ンク，軽食などを販売．ワインソムリエが接客するなど，参加者は足羽川の夜景を眺めながらワインを楽しむ社会実験的なイベントであった．
そこから，2016年2月28日，浜町通り周辺の飲食店が中心となって，「浜町足羽川利用促進協議会」が設立された．地域の特色を活かした魅力ある水辺の利用をめざし，現在，改正された河川敷地占用許可準則に基づく足羽川河川敷の包括的占用に向けた協議が進められている．
※テーマ：設える，育てる，広げる



図－２ 包括的占用スキーム例

(3) 大和川水系の挑戦

大和川水系には個性豊かなまちが多く，水辺の賑わい創出について，潜在的にかなりのポテンシャルがある．そんな大和川水系で，いま最も期待されているのが，下流の堺市域である．堺市域では現在，高規格堤防整備事業と一体となった土地区画整理事業が進められている．新たなまちづくりに合わせ，かわまちづくり支援制度を活用した水辺の賑わい創出をめざしている．
注目したのは，自転車である．
堺市は，自転車との関わりが深く，「自転車のまち堺」を謳っている． そこで自転車を活用した水辺からのまちづくりについて，自治会や市民団体，企業などと意見交換会を行っている．
市民団体からは，大和川水系を自転車道でつなぐアイデアが出されるなど，水辺の利活用について期待が広がっている．
※テーマ：見つける，設える，広げる

写真－12 市民団体との意見交換会

5. まとめ

ミズベリング世界会議では，水辺からのアクションがまちの使いこなしを広げ，やがて，住まい訪れる人々の愛着と誇りにつながること．そして，水辺の新たな使いこなしを支えて，魅力をつくり，次世代に引き継がれていくことを確認した．
「水辺とまちの未来創造プロジェクト」がめざした思い，水辺空間の賢い利用や市民を巻き込んだ取り組みは，ミズベリング世界会議を経て近畿各地へ，そして全国へと引き継がれている．

次は河川管理者の番だ．
市民や企業，そして行政が三位一体となったとき，水辺とまちが一体となった美しい景観，新しい賑わいを生み出すことができる．
地域と共に水辺の賑わい創出をめざす．
いま，全国のミズベから，挑戦が始まっている．

以上

本論文は著者の前任地である，近畿地方整備局　河川環境課での成果を取りまとめたものである．

謝辞：本論文作成にあたり，その趣旨を理解し内容の確認など快く協力していただいた各団体の皆様に心から感謝申し上げます．本当にありがとうございました．